

SDGs REPORT 2025

SUPERHOTEL

Natural, Organic, Smart



環境大臣認定
先進的な環境保全運動に取り組む
企業を、環境大臣が「エコ・ファースト
企業」に認定する制度

地球も、従業員も、地域も幸せに。

Well-beingな未来のために

スーパーホテルは挑戦と進化を

続けていきます。

環境活動の集大成として挑む「CO₂実質ゼロ泊」の実現

2000年からスタートしたスーパーホテルの環境活動は、今年で25年目。およそ四半世紀にわたり「省資源・省エネルギーの環境配慮型ホテル」を追求してきました。その集大成として昨年から取り組んでいるのが「CO₂実質ゼロ泊」。これまで公式サイトおよびPremier店舗での予約限定だった「ECO泊」を、すべてのお客様に適用するという、思い切ったプロジェクトです。全国の店舗で再生可能エネルギー由来の電力を採用し、水道やガスの使用によるCO₂排出量は100%カーボン・オフセットすることにより、温室効果ガス排出の基準であるScope1,2についてはCO₂実質ゼロを実現。2043年までにはサプライチェーン全体でより広い範囲での実質ゼロを目指し、Scope3に取り組みます。

政府が2050年に実現を宣言しているカーボン・ニュートラルを7年も前倒しにしたのは、エコ・ファースト企業としての矜持からといえるでしょう。地球の気候変動は待ってくれません。環境大臣に認定された事業者として私たちは、未来の世代により良い地球を残すために最前線に立たなければならないと思っています。

こうした挑戦の根底にあるのが創業以来ずっと訴え続けてきた「地球も、人も、幸せであってほしい」という願いです。その思いに裏打ちされた私たちの活動は、今、注目される「Well-being(ウェルビーイング)」にもつながるといえるでしょう。身体的、精神的、社会的、そして環境面でも“良く生きる”という包括的な幸福を意味するこのキーワードを体現し、すべてのステークホルダーを幸せにしたという理想を込めています。

1人ひとりの思いを叶える「ライフスタイルホテル」へ

Well-beingの実現はまず、働く人々を幸福にすることから始まります。スタッフが心身ともに健やかでなければ、お客様も笑顔になれません。私たちは単に客室というスペースを提供しているのではなく「元気になる時間」を提供しているのですから。そのためにスーパーホテルでは「ウェルネス委員会」を立ち上げ、運動会やボウリング大会、フットサル大会などを開催し、従業員が主体的に参加できる健康増進と交流の機会をたくさん設けています。また睡眠プログラムの導入によって、シフトで乱れがちな生活リズムを整えるサポートも行っています。

さらに「ライフスタイルホテル」として、地域の幸福に寄与するのもWell-beingの一環。スーパーホテルは全国に170店舗以上ありますが、地元の方々にも「ここにホテルがあって良かった」と感じていただきたい。そのために「地元割」プランを作ったり、近隣の飲食店やスーパーと連携してホテル滞在そのものを味わえる仕掛けづくりも考えています。最近では“ビジホ女子”なるおひとり様女性が自分だけの時間を楽しむためにスーパーホテルを訪れるケースも増えています。温泉に浸かり、好きなフードを買い込んでウェルカムバーや客室でゆっくり過ごしたり…思い思いのライフスタイルに、寄り添えるホテルでありたいと思うのです。

今後、大阪・関西万博終了とともにインバウンド需要も一段落し、次の上昇気流をどう創造していくかが問われています。その鍵はやはり地方を元気にすることだと私は考えます。ライフスタイルホテルとして、行政や地元の人々と協働しながら、日本全国に新しい活力と魅力を生み出していくことを約束します。

株式会社スーパーホテル

代表取締役社長 **山本 健策**



Natural, Organic, Smart

Well-being

人も、地球も、社会も。すべての幸福を叶えるホテル

お客様に「ぐっすり」を。地球と地域に「優しさ」を。

そして働く人には「生きがい」を…。

スーパーホテルはWell-beingな世の中を目指して、

様々な取り組みにチャレンジしてきました。

それは、幸福な未来へ羽ばたくための「つばさ」。

持続可能な明日へ向かって進み続けるための美しい羽です。



「ぐっすり」で幸福に P.15

深い眠りは、心と体をとのえる一歩。
スーパーホテルは、快適な睡眠環境を
ととのえ、お客様の「明日の元気」を
サポートしています。



地域も地球も幸福に P.21

地域に寄り添い、地球にやさしく。
環境に配慮したホテル経営と、地域と
共に歩む取り組みで、持続可能な社会
づくりに貢献しています。



働くひとを幸福に P.29

働くことが、生きるよろこびになるよ
うに。スーパーホテルは、社員一人
ひとりの挑戦と成長を応援し、働き
がいあふれる職場づくりに力を注い
でいます。



TOPICS P.05

いま届けたい、スーパーホテルの 最新トピックス

万博協賛やファンコミュニティ、
CO₂実質ゼロ泊など、注目すべき
取り組みをピックアップしてご紹
介します。





Well-beingな大阪・関西万博へ

地元大阪を盛り上げる！

「いのち輝く未来社会」を共に描く

2025年4月～10月に開催され、日本中の注目を集めた大阪・関西万博。スーパーホテルは「いのち輝く未来社会のデザイン」というテーマに強く共感し、地元大阪を盛り上げるべく協賛企業として参画しました。サステナドームでの次世代育成プログラム「ジュニアSDGsキャンプ」、「近江米のおにぎり作り体験」など地域色豊かなイベントの紹介、さらにシグネチャーパビリオン「Better Co-Being」への協賛など、多角的な取り組みを展開。全国にネットワークを持つホテルチェーンとして、またエコ・ファースト企業として、来場者がSDGsへの理解と行動を広げるよう、未来へつなげるメッセージを発信しました。



取り組み

1

「ジュニアSDGsキャンプ」でワークショップを開催

万博の会場西側に位置するサステナドームにおいて実施された「ジュニアSDGsキャンプ」は、子供たちが自らの生活の中から課題を発見し、解決策を考えるための体験型イベントです。会期中の7月2日、教育テック大学院大学（法人本部：大阪市）と連携し、「サステナブルホテルをスーパーホテルで学ぼう」と題して、ワークショップを開催しました。プログラムは「カーボン・オフセットによるCO₂実質ゼロ泊」「有機JAS認定の野菜を使用した朝食」「国産木材や再生資源の活用」など、スーパーホテルの様々な取り組みを紹介し、ホテルの宿泊を通じてSDGsが身近に感じられるワークショップ。冒頭で同大学の和田順子教授から趣旨説明、講師を同大学院1期生の神田みゆきさんが務めました。歌や笑いを織り交ぜながらの楽しい時間でした。このワークショップは11時、13時、15時の3回にわたり開催され、各回ともほぼ満席となる盛況ぶりでした。



写真右：講師を務めた教育テック大学院大学・第1期生 神田みゆきさん



取り組み

2

関西食の「わ」プロジェクトで滋賀の農業遺産を発信



食文化の継承活動等を近畿農政局が認定する「関西 食の「わ」プロジェクト」が6月8日、大屋根リング下のポップアップステージ西において出展。スーパーホテル滋賀・草津国道1号沿が参加しました。プログラムは「世界農業遺産」に認定された「琵琶湖システム」や、地元住民やお客様が色々な近江米を食べ比べる「おにぎり体験」を紹介したり。地域の食文化や環境保全の大切さを、おいしい体験と共に伝えました。

取り組み

3

シグネチャーパビリオン Better Co-Beingのパートナーに

万博のテーマ事業「シグネチャーパビリオン」の1つ、Better Co-Beingのパートナー企業に名乗りをあげたスーパーホテル。「一人ひとりがつながり、多様な命を尊重し、誰ひとりとして取り残さない新しい未来社会を共に創る共鳴体験」を掲げた屋根も壁もないパビリオンです。スーパーホテルは、サステナホテルとして環境や地域活性化に取り組む自社の姿勢と、このパビリオンのテーマに親和性があるとして協賛を決めました。

➡ Better Co-Beingのプロデューサー、慶應義塾大学の宮田裕章教授とスーパーホテル山本梁介会長との対談は12ページへ



Column

協賛に対して2025年日本国際博覧会協会より感謝状

シグネチャーパビリオンBetter Co-Beingへの協賛に対し、2025年日本国際博覧会協会より感謝状が授与されました。博覧会協会を代表して企画局企画部審議役兼テーマ事業課長の柴田晃宏氏より、直接感謝状が手渡されたのはまだ開幕前の2025年2月17日。この栄誉により、さらに万博のサポーターとしての取り組みを広げていく思いにつながりました。





「CO₂実質ゼロ泊」でWell-beingなホテルへ

環境負荷低減に向けて進化

「ECO泊」が「CO₂実質ゼロ泊」に

スーパーホテルは、「自社の出すCO₂に責任を持つ」という考えから、宿泊時に発生するCO₂をカーボン・オフセットする「ECO泊」を業界に先駆け2010年より全店で導入。公式サイト・Premier店舗の予約を対象に、13年間で累計2,000万泊超、約12万トンのCO₂削減に貢献してきました。さらに、2024年10月から導入を開始した「CO₂実質ゼロ泊」では全宿泊に範囲を広げ、さらなるCO₂削減へ。サプライチェーンを通じた排出をとらえるScope1・2に加え、Scope3の算定・削減を実施し、2043年度のカーボン・ニュートラルに向けて取り組んでまいります。今後もホテル業界で唯一のエコ・ファースト企業として、宿泊者参加型のサステナブルな宿泊の提供を目指し続けます。



	一般的なCO ₂ 排出カテゴリ	ホテルでのCO ₂ 排出例	スーパーホテルの取り組み
Scope 1	事業者自らによる温室効果ガスの直接排出	宿泊に伴うガス、水道使用によるCO ₂ 排出	カーボン・オフセット対象者 2010年～ 公式サイト予約のみ 2024年10月～ 全宿泊対象
Scope 2	他社から供給された電力や熱、蒸気の使用に伴う間接排出	宿泊に伴う電力使用によるCO ₂ 排出	実質CO₂フリー電力への切り替え 2022年12月1日～ 40店舗 2024年10月1日～ 全店舗に順次導入
Scope 3	Scope1、Scope2以外の間接排出(事業者の活動に関連する他社の排出)	・アメニティ等の備品(製品ごとの製造、運送) ・社員の出張、移動等によるCO ₂ 排出など	SBT認定の取得を目指しサプライチェーンを巻き込んでCO ₂ 削減を目指す

宿泊自体がCO₂削減へ

「CO₂実質ゼロ泊」を全宿泊に導入

取り組み

1

カーボン・オフセットを全宿泊対象に

公式サイト以外や電話で直接予約した宿泊を含む全宿泊をカーボン・オフセットの対象に。お客様の宿泊時に発生した二酸化炭素排出量の100%をスーパーホテルがクリーンエネルギー事業に投資することで、環境負荷低減に大きく貢献。全国170店舗以上・年間約700万人のお客様の脱炭素行動を促すきっかけづくりにつながっています。

宿泊時の電力

再生可能エネルギーを活用しCO₂ゼロへ！



宿泊時の水道やガス

環境保全活動へ100%投資をしCO₂ゼロを実現しています！



取り組み

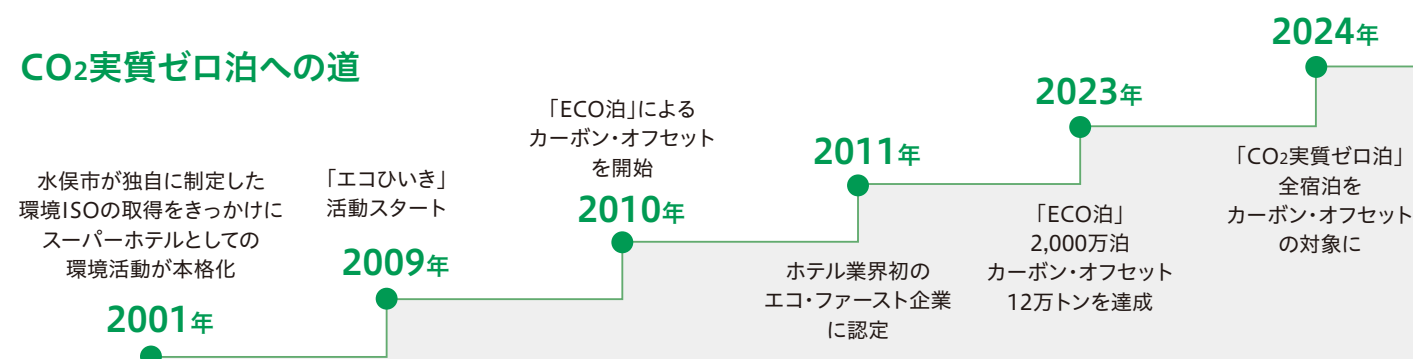
2

「実質CO₂フリー電力」への切り替え

ホテルで使用する電力は電力会社のCO₂フリープランへの切り替えや非化石証書等を利用し、2024年10月1日より全国店舗で順次再生可能エネルギー由来のグリーン電力化を図っています。それによるCO₂削減効果は年間で約18,000トンとなり、環境負荷軽減につながりました。



CO₂実質ゼロ泊への道



Column

2025年10月「サステナブル★セレクション2025三つ星」を獲得！

「サステナブル★セレクション」とは、株式会社オルタナと一般社団法人サステナ経営協会の共催で、サステナブル(持続可能)な理念と手法で開発された製品／サービスを選定し、推奨する仕組みのこと。「CO₂実質ゼロ泊」は国内大規模チェーンホテルでは初の取り組みであり、全176施設宿泊分のCO₂排出量「実質ゼロ」を実現した点が評価されました。

「サステナブル★セレクション2025」三つ星選考委員の評価コメント

ZEN大学知能情報社会学部教授・NPO法人ELP(Earth Literacy Program)代表 竹村 真一 審査委員長

水俣の公害問題を出発点に、地域と共に環境活動に取り組まれている点が大変印象的です。水俣には、森から海へとつながる水系全体を視野に入れ、環境と文化づくりに骨太に取り組んできた地元の方々があります。その精神を受け継ぐ貴社には、三つ星をゴールとせず、さらなる高みを目指していただきたいと思います。「CO₂実質ゼロ」は素晴らしい成果ですが、水や森林など他の社会課題にも積極的に取り組まれることを期待します。水循環技術や木造建築の先進事例をもつ団体と連携し、地域の水・森林環境の向上につながれば、世界を代表するグリーンホテルとなるでしょう。心よりエールを送ります。





ファンコミュニティでWell-beingな関係へ

お互いにリアルタイムでつながれる

初のファンコミュニティを結成

2023年10月から、ファンの皆様をお招きし対話するファンミーティング「超（スーパー）・集会」を計8回実施。「スーパーホテルのファンの皆様とつながり続けられる場があれば」と、ファンコミュニティ「超（スーパー）・集団」を結成しました。「ホテナカもホテソトもたのしんでNAMBO」をコンセプトに、Slackアプリを活用した掲示板での情報交換や、テーマに沿ってディスカッションするNAMBONAMBO会議などのイベントを企画。ファンの皆様との交流やそこから生まれるアイデアをヒントに、店舗作りや新サービスの開発に取り組んでいます。



Message



経営品質本部
執行役員
星山 英子

応援してくださるファンの皆様の視点で よりよい価値を創出していくために

ホテル業界のコモディティ化が進み差別化が難しくなっている中で、熱量高く支えてくださるコアファンの存在はますます重要になってきています。弊社ではリピーターが約70%と比較的高く、多くのお客様に支えられています。「ファンが感じるスーパーホテルの価値」をさらに伸ばし、ファンの皆様とともに「未来価値」を創っていくことを目的に、この度ファンコミュニティ「超（スーパー）・集団」を結成しました。

今年オープンしたPremier阿蘇熊本空港では、ファンの皆様と一緒に茅材のオブジェを作り、地域活性化に取り組みました。今後もファンの皆様と地域を応援して盛り上げていきたいと思っています。



コアファンの意見やアイデアをもとに、 新しい価値を創造する

記念すべき第一回目のNAMBONAMBO会議のテーマは『睡眠・ぐっすり』。10名の「超・集団」メンバーが集まり、「自分の今の睡眠について振り返る」、「睡眠プログラムを体感・自分のこれからの睡眠について考える」、「スーパーホテルの睡眠を考える」の3つのワークに取り組みました。NAMBONAMBO会議の特徴は、スーパーホテルとコアファンの皆様がWin-Winの関係になること。ファンの方々の日常的な睡眠をサポートできるプログラムやワークを提供し、スーパーホテルへも新たな視点をフィードバックいただく形です。今回のグループワークからは、「ヒノキのアロマを客室に導入する」、「光目覚ましの導入」など、睡眠にまつわる新たなサービスにつながる意見が挙げられ、価値やニーズの発掘につながりました。

コミュニティサイトで 相互の交流が活発に

スーパーホテルとファンがより近い距離でつながれるように「コミュニティサイト」を新たに開設しました。ここでは「ホテナカもホテソトもたのしんでNAMBO」をコンセプトに、従業員とファンという垣根をなくしたコミュニケーションを通じて、「泊まる」を超えた楽しみを創る仲間として活動できることを目指しています。

①自己紹介

スーパーホテルのスタッフとコミュニティメンバーが自己紹介しあう場所。

②おしゃべりラウンジ

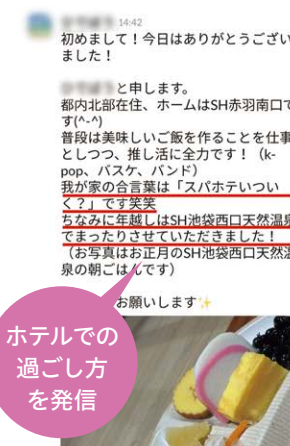
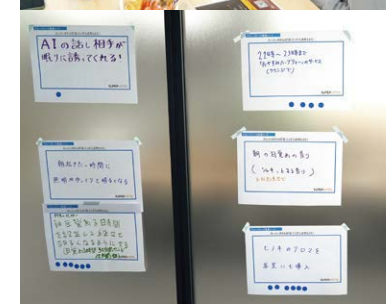
自由にメッセージをやりとり。

③地域名チャンネル

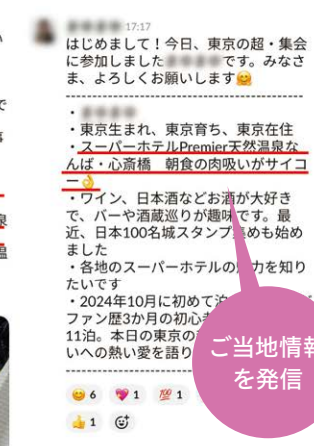
よく行く地域やお住まいの地域について情報共有。

④お知らせ掲示板

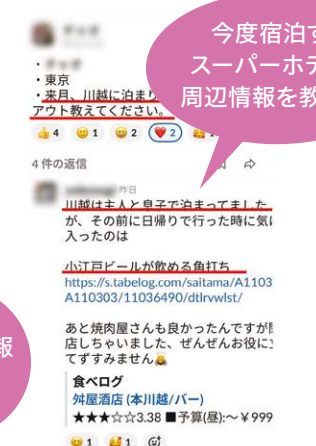
スーパーホテルからファンの皆様へお伝えしたいことを投稿。



ホテルでの
過ごし方
を発信



ご当地情報
を発信



今度宿泊する
スーパーホテルの
周辺情報を教えて！



SUPER HOTEL GRAND PRIX 2024



おもてなしを磨いてWell-beingを極める

よりよい宿泊体験を目指して実施

各種グランプリで接客スキル向上へ

「第二の我が家のようにくつろいでいただけるホテル」をコンセプトにしているスーパーホテルでは、全店のフロントアテンダントが参加できる社内接客コンテスト「スーパーホテル・グランプリ」を実施しています。2024年度には「ご当地結びスタ部門」が新設され、ご当地の魅力をPRする活動のプレゼンを表彰する取り組みもスタート。さらに「朝の接客グランプリ」も実施し、お出迎えからご出発まで、地域の魅力にふれながら気持ちよく過ごしていただける接客スキルの向上と環境づくりに努めています。

第11回スーパーホテル接客グランプリ2024

接客部門

基本接客スキルのほか、独自コンセプトのアピール力やお客様とのコミュニケーション力、提案力などをポイント制で審査。会社幹部以外に外部接客講師の方々にも審査いただき、2024年度は金賞・銀賞・銅賞が1名ずつ、審査員特別賞が2名の方に贈られました。



ご当地結びスタ部門

地域と宿泊者の架け橋となる「ご当地結びスタ」の活動をより広めるため、ホテルのある地域の魅力を届ける部門を新設。最優秀賞と優秀賞が2店舗に贈られました。



朝の接客グランプリ2024

スーパーホテルの強みである接客・ご当地感・オーガニックなどのPRを行い、お客様に「活気があっておいしい朝食だった」、「気持ちのいい挨拶・見送りで今日も元気に働ける」と感じていただけるようなおもてなしを磨く取り組みです。金賞・銀賞・銅賞が1店舗ずつ、審査員特別賞が2店舗に贈られました。

今後もこの取り組みを深化・継続させ、全店舗で顧客満足を超えた感動のおもてなしを提供できるホテルを目指します。



その店舗ならではのこだわりを訴求



焼き立てのパンをご提案

SDGs REPORT | 特別対談 |

トレードマークのホワイトヘアに、厚底スニーカー。

おしゃれなカジュアルスタイルで登場したのは、医療政策やデータサイエンスの第一人者として知られる慶應義塾大学医学部教授、宮田裕章先生。

大阪・関西万博でシグネチャーバビリオン「Better Co-Being」や「静けさの森」をプロデュースされたことでも有名です。

スーパーホテルは、その理念に強く共感し、パートナーとして名乗りを上げました。

今回は、山本梁介会長が宮田先生と対談。万博に込めた思いや、サステナブルな未来への展望を語りました。

株式会社スーパーホテル 会長

山本 梁介

慶應義塾大学 教授

宮田 裕章氏



プロフィール(みやた・ひろあき)
1978年生まれ。慶應義塾大学医学部 医療政策・管理学教室教授。東京大学大学院で保健学博士号取得後、同大学で医療品質評価学講座教授を経て現職。専門はデータサイエンス、科学方法論、Value Co-Creation。National Clinical Databaseの構築や厚労省・LINEの新型コロナ全国調査など、医学領域にとどまらず社会課題解決に挑む。行政、企業、NPOと連携し、新しい社会ビジョンを共創。「いのちを響き合わせて共鳴する社会」を掲げ、大阪・関西万博ではテーマ事業プロデューサーを務める。

YAMAMOTO

その一翼を担いたい。祝祭を幸福な明日につなぐ

より良い共生社会を目指したいという共通の思い

山本 大阪・関西万博(以下、万博)は開催前の懸念を払拭し、熱気あふれる盛り上がりを見せています。宮田先生のパピリオンBetter Co-Beingも連日予約でいっぱいだそうですね。

宮田 おかげさまで多くの方から評価いただいています。スーパーホテルさんがパートナーとして協力してくださったことにも、深く感謝しています。

山本 以前から宮田先生の思想には興味を持っており、私どもの理念と非常に似た点があるなど感じておりました。宮田先生の肩書きは慶應義塾大学医学部教授ということですが今回、万博のプロデューサーを引き受けられたのはなぜでしょうか？

宮田 私自身のコアというのは「社

会あるいは未来に貢献するためにハードをどう使うか」という点にあります。医学はそのきっかけであり、病気を診るだけの医療ではないんです。人が自分らしく自然に生きて病気になる、あるいは生まれながらに病気を持っていて格差が妨げにならない……「共生する世界」をつくるにはどうすれば良いのかを常に考える中で、万博はまさに未来のあり方を問う機会ではないかと考えたのです。

山本 なるほど、万博がこれからの共生社会のシンボルになると思われたのですね。

宮田 6ヵ月間の祝祭というだけではなく、この先につながっていく実践を紡いでいけたら。そこに万博の真の意味があるのではないのでしょうか。

山本 先生の思いは、まさに私どもが万博協賛を決めた理由と重なります。できれば今後も様々な事業で一緒にできたらと考えています。

宮田 光栄です。こちらこそぜひ。

五感を通じた体験が多様性への理解へとつながる

山本 Better Co-Beingは壁も屋根もないユニークな建造物ですが、私がここで味わったのは「デジタルとナチュラル」「アートと自然」など相反するものが融合する唯一無二の体験でした。宮田先生はこのパピリオンに、どんな思いを込められたのでしょうか？

宮田 1970年の万博は、丹下健三氏の大屋根と、それを突き破る太陽の塔が象徴的でした。「秩序と合理性」vs「本能」という対立関係からエネルギーを生み出したのです。一方、

現代は対立から何かを生み出せる時代ではありません。今回の万博で私たちは、藤本壮介氏の大屋根と、内側にある森という二重構造の風景を創りました。それは「違いそのものを祝福し、共鳴から未来を立ち上げる」というメッセージなのです。

山本 なるほど。違いを体感することが目的なのですね。

宮田 五感を通じた体験こそが分断を超える答えの1つだと思うからです。会場では、インターネットでは得られない異国のスパイスが鼻をくすぐり、聞いたことのないリズムが体を揺らし、見たことのない景色に出会える。「あ、これが多様性なんだ!」と頭ではなく体でわかることが大切なのです。

山本 スーパーホテルも睡眠環境を科学的に研究し、香りや音、光など五感に働きかける空間づくりを重視しています。

宮田 私も出張の際はよくスーパーホテルに宿泊するのですが快適と快眠の秘訣はそこにあったのですね。今、納得できました。

山本 五感を通じた体験の大切さは、スーパーホテルの理念とも重なりを感じます。私たちは、単に宿泊の場を提供するだけではなく、お客様が五感を通じて「快適さ」と「安心感」を得て、翌日には心身ともに元気になって送り出されることを使命としています。

宮田 宿泊という体験を通じて社会全体にウェルビーイングを広げる実践ですね。

山本 ありがとうございます。私どもはお客様に快適な眠りを提供するだ

けでなく、「泊まる前よりも元気になるって帰っていただく」ことを目標としています。その結果、出張に來られたビジネスパーソンや旅行者の方々が、地域にポジティブな影響を広げていくことになるからです。ホテルとは本来、そうした地域の応援団を支える存在であるべきでしょう。また、私どもは「自律型感動人間」の育成を企業理念に掲げています。一人ひとりの社員が主体的に考え、行動し、お客様や地域社会に感動を届けられる存在になること。利益や規模の追求だけではなく、社員が生きがい・やりがいを感じ、互いに共鳴しながら社会に貢献できる組織でありたいと考えているのです。

宮田 まさに Better Co-Beingと響き合いますね。人が自律しながらも互いに感謝や感動を分かち合う。その積み重ねが社会全体のウェルビーイングにつながっていく…。万博も、異なる文化や価値観を持つ人々が体験を通して共鳴する場ですから、その理念と非常に近いものを感じます。

山本 私自身、若い頃に1970年の万博を経験しましたが、あの時の万博は「成長」がテーマだったと思います。今回とはベクトルがまったく逆で、この2つの違いが宮田先生のBetter Co-Beingに集約されているように感じます。70年代は高度成長期で社会全体に勢いがありました。が、バブルが崩壊して停滞期が訪れました。この時私は「これからの経営は、がむしゃらに一番を目指すのではなく、関わる人が幸福になる組織を作るべきだ」と考えたのです。スーパーホテルの環境活動が始まったのは、その頃からですね。

宮田 株式資本経営から、人的資本経営へ…その取り組みはまさに、経

済成長を目的化するのではなく、未来を良くすることを目指す点で、万博の理念と共通していると感じます。

山本 光栄です。今回の万博協賛を通じて、私たちは理念をさらに進化させ、未来に生きるレガシーとして残していきたいと思います。

真のレガシーは形ではなく、感動を伝えること

山本 パピリオンと共に、万博会場の中心に位置する「静けさの森」も宮田先生がコンセプトを考えられたと伺いました。

宮田 この森は単なる緑地ではなく会場の熱気から少し距離を置き、深呼吸できる「内省の場」として設計しました。実は建物より先に森づくりを始め、2年かけて生態系を呼び込んだのです。だからこそ今では昆虫や鳥たちが集い、風や光と共に生きた環境として機能しています。

山本 私も訪れた際、木々の間を抜ける風や土の匂いに癒やされ、心がほっと落ち着くのを感じました。森を中心に据えようと考えられた背景には宮田先生の原風景が関わっているのでしょうか？

宮田 私の個人的な思い出というより、日本は放っておくと森になる国ですから、森こそがこの国における自然の象徴だと考えました。もし中東だったら砂漠でしょうし、別の国だったら海岸あるいは雪原かもしれない。「静けさの森」は日本から世界に向けて、自然と人間の関係を問い直す場として提示しているのです。そして、この森は、大屋根リングの一部と共に万博の閉幕後も保存される予定です。子どもたちの教育であったり、アートや文化的イベントも行い

ます。森の中で良い睡眠を体験する試みなどは、スーパーホテルさんと親和性があるかもしれません。

山本 2年かけてつくり上げたものを壊すのではなく、未来に生かされることに安心しました。

宮田 放置すれば森は荒れてしまいますから、人が常に介入し、生態系と向き合いながら保全する必要があります。今回もトンボの発生が蚊の繁殖を抑えるなど良い循環が見られました。都市の中に自然を実現するモデルケースになるのではないのでしょうか。

山本 すばらしいレガシーですね。形として残るだけではなく、経験や知恵が、より良い未来のヒントとして後世に伝えられるのですから。

宮田 そういう意味では、真のレガシーは万博を訪れた人の記憶かもしれませんね。

MIYATA

万博が残すレガシーは訪れた人々の体験そのもの。





Well-sleeping

ぐっすり で幸福に

スーパーホテルでは約30年前から

「ぐっすり」にこだわり続けてきました。

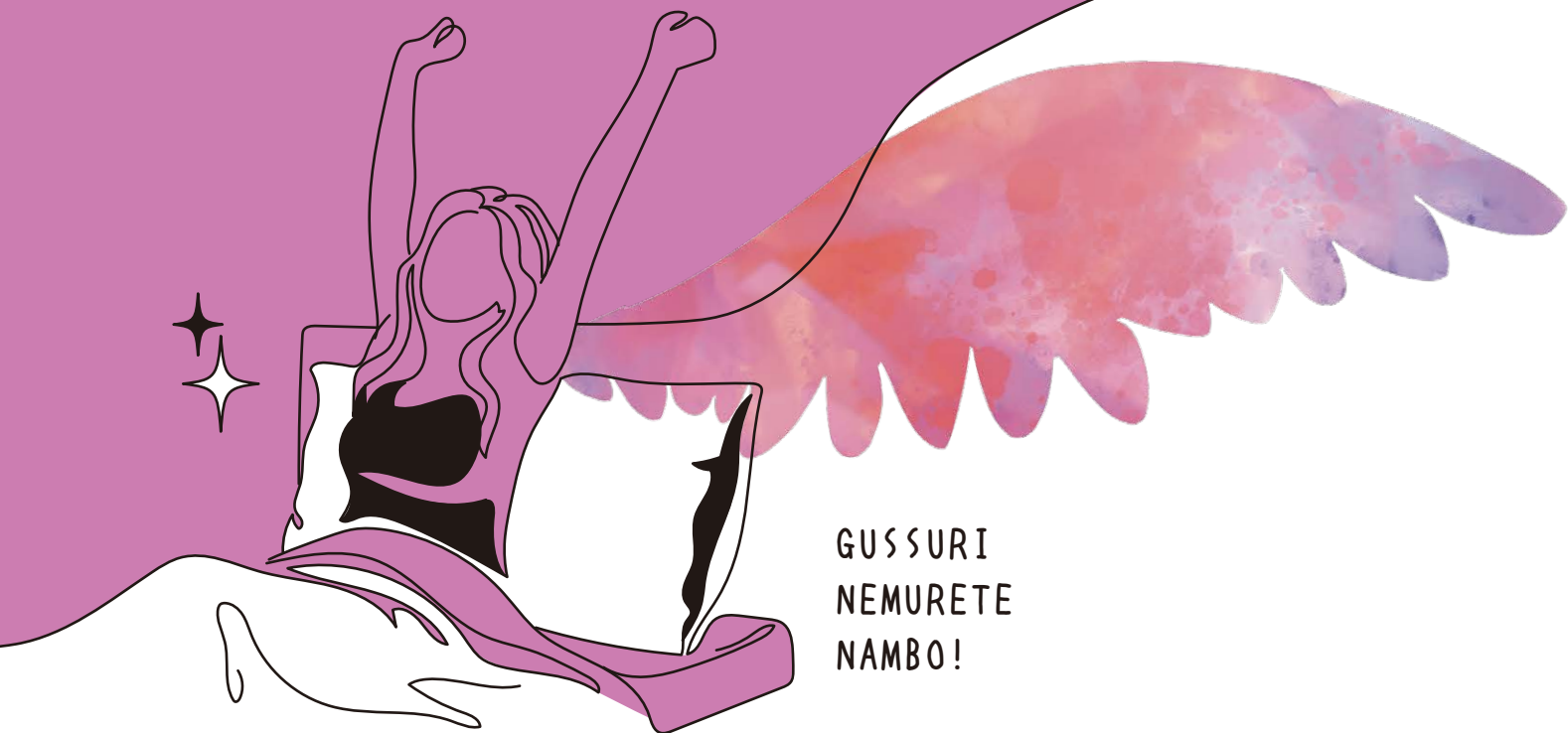
それは良質な眠りがお客様の健康につながり、

ひいては日本中を元気にする源となると考えているから。

よい眠りから、心とからだの幸福へ。

館内の各所に息づいている、

快眠につながる取り組みをご紹介します。



GUSSURI
NEMURETE
NAMBO!

「ぐっすり」から「すっきり」へ。
すべてはおお客様の健康のために。

「この子の未来のために」



きれいな空気、
きれいな水、
きれいな言葉、
きれいなホテル。

そして地球も同じようになったらよいですね。（お客様のお声より）

スーパーホテルには、全国から
月2万件ほどお客様の声が寄せられます。
その中にあったこのメッセージに感動し、
ご本人に許可をいただきブランドコンセプトに。
「きれいな空気」は、
空気清浄効果のある自然素材で。
「きれいな水」は、
ぐっすり・すっきりが検証された健康イオン水で。
そして「きれいな言葉」は、
お客様を心から大切に思うおもてなしで。
お泊まりいただくと一歩、健康に近づける。
そんなホテルを目指して、
これからもサービスを磨いてまいります。

「ぐっすり眠れるホテル」を 創業当初から目指して

創業当初から、お客様が「ぐっすり眠れる」睡眠環境づくりにこだわってきたスーパーホテル。2004年より、大阪府立大学名誉教授・清水教永医学博士と共同で「ぐっすり研究所」を設立しました。

睡眠を科学的に研究した結果、寝具や寝室環境が睡眠の質の改善に役立つことが明らかに。研究結果をスーパーホテルで実践し、健康イオン水や8種類の枕、天然温泉、客室天井への珪藻土の活用などの取り組みを展開してきました。宿泊時にぐっすり眠れなければ宿泊料金を返金する業界初の「品質保証」を実施しています。今後も睡眠への徹底的なこだわりをさらに進化・深化させてまいります。

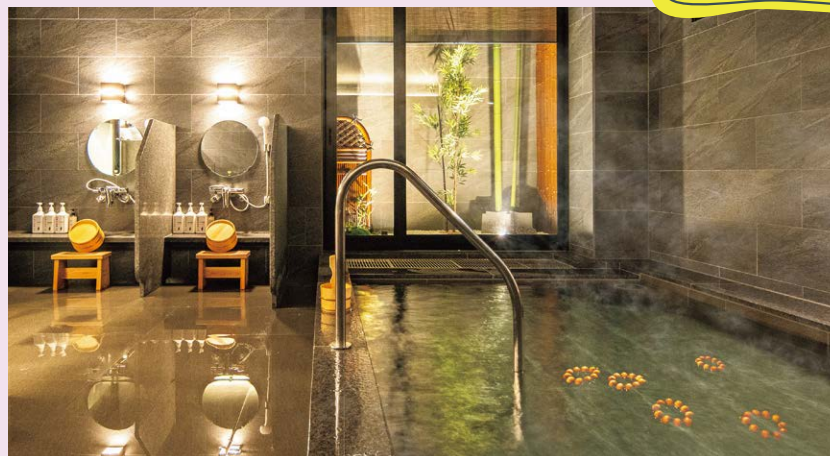




1 天然温泉

本物ならではの心地よさで 心身ともにリラックス

お客様の健康と安眠のために、天然温泉を導入しています。温浴によるリラックス効果に加え、お湯に溶け込んだ成分が疲労回復や美肌など様々な効果をもたらします。



「ぐっすり」への こだわり

音や光、温度や寝具のちがいがなどから、旅先では睡眠が乱れやすい傾向にあります。スーパーホテルではお客様に「ぐっすり」とおやすみいただくために、健康の要となる快眠へのこだわりを館内の各所に配しています。

2 珪藻土

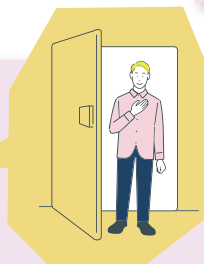


客室の湿度をととのえ きれいな空気に

客室の天井に調湿・消臭・抗菌などの効果が期待できる北海道稚内産の珪藻土を使用。天然の空気清浄効果とともに睡眠の大敵である湿度と乾燥を防ぎ、より眠りやすい環境へ。



3 防音設計



図書館並みの静けさで 安眠効果に期待

窓ガラスやドアなどは設計段階から防音を意識。静かな部屋で音が気にならない静音タイプの冷蔵庫を採用し、音に悩まされずにぐっすり眠れる環境を整えています。



高さ・硬さ別に 8種類から選べる

快適な睡眠環境に欠かせない枕。特にレディースルームでは女性の身体に合わせた女性専用枕をご用意。「これが眠りやすい!」と感じられる理想の枕をお選びいただけます。



4 選べる枕

5 オリジナルマットレス

硬すぎず柔らかすぎない ゆったり広い寝心地

ベッドは140~150cm幅のワイドサイズ。理想的な寝姿勢を保つオリジナルマットレスを採用し、絶妙な弾力で吸い込まれるような心地よい眠りを満喫できます。



7 超・ぐっすり パジャマ

実用的な快適デザインで 快眠をサポート

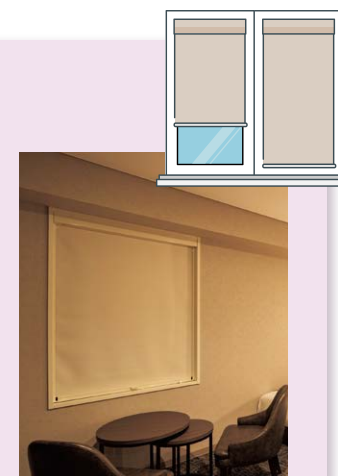
ハイブリッドメッシュ素材で通気性が良く、裏地はマシュマロのような柔らかな肌触り。生地に特殊な加工が施され、身体のリズムを整えて快眠をサポートします。また、ゆったりデザイン&セパレートタイプなので館内でも快適に着られます。



9 遮光カーテン

睡眠に必要な暗さを しっかり確保

夜間の光刺激は質のよい睡眠の大敵。就寝前には光を遮断するカーテンを閉め、起床と同時に光を浴びる。必要な暗さと明るさを提供する遮光カーテンの導入により、睡眠のリズムをサポートしています。



10 健康朝食

朝食をしっかり食べて 質の良い睡眠へ

トリプトファンやマグネシウム、ビタミンB群、健康的な脂質などがバランスよく含まれたメニューを提供し、質の良い睡眠につなげています。



6 健康イオン水

「ぐっすり」「すっきり」が 検証された水を供給

水を加圧しながら特殊な鉱石と接触させ、分子活動を活発にして高エネルギー水に。浸透力や抗酸化力に優れた水を飲用だけでなく洗面やお風呂にも贅沢に使っていただけます。



8 ヒーリング ミュージック

1/f ゆらぎを持つ音楽で 耳から「ぐっすり」

寝る前に音楽を聴くと副交感神経が優位になり、入眠しやすい環境を整える点でポジティブな効果があると考えられています。スーパーホテルでも睡眠に適した環境音楽を取り入れ、入眠をサポートしています。



おやすみ前にホッとくつろぐ一杯を ぐっすりハーブティー

リラックスにつながるラベンダーやカモミールなどをブレンドしたオリジナルハーブティーを開発。ノンカフェインで就寝前でも安心して召し上がりがいただけ、より快適なくつろぎ時間の提供につなげています。



2025年11月より順次導入予定

東白川村と諸塚村で採れるヒノキリングを浴槽内に

天然温泉にヒノキの香りや成分が加わり、
就寝前により一層のリラックスを

スーパーホテルは、自然豊かな岐阜県東白川村と宮崎県諸塚村と連携し、地方創生に向けた取り組みを行っています。例えば、両村で毎年グリーンツアーを開催するほか、フロントロビーでは東白川村産のヒノキアロマを使用し、お客様にリラックスしていただける空間を提供。また、諸塚村産のFSC®認証木材(スギ)を全国のスーパーホテルの朝食用ボックスとして活用したり、宮崎県内のスーパーホテル宿泊で発生するCO₂を諸塚村のJ-クレジットでオフセットするなどの取り組みです。

その一環として、両村で採れるヒノキを使ったリングを大浴場の浴槽内に浮かべています。森の中にいるような清々しい香りと木の手ざわり、天然温泉の心地よさでリラックスし、ぐっすりとおやすみいただくこと。それはお客様の健康をつくるとともに、環境保全や地域振興にもつながっています。

天然ヒノキアロマをもっと身近に

心まで癒やされるような清々しい香りを
大浴場の脱衣所やご自宅でも

ホテルに入った瞬間、お客様をお出迎える清々しい香りは天然ヒノキアロマによるもの。スーパーホテルでは、お客様に森の中にいるような清々しい香りでリラックスしていただけるよう、全国108店舗の大浴場脱衣所にもディフューザーを設置しました。また、スーパーホテルのファンからのご要望を受けて、「天然ヒノキアロマ」は公式オンラインストアでの販売も開始。原料となるヒノキはパートナーシップを結ぶ岐阜県東白川村で採れた、FSC®認証を受けたもの。心身ともにリフレッシュしていただくことで「ぐっすり」につなげるこの取り組みは、同時に環境保全と地方創生にも役立っています。



オリジナルオーガニックアメニティ

オーガニックフェイスマスクが新登場！

旅先でも「ぐっすり」「すっきり」過ごしていただくために。2025年7月よりフロントロビーにて提供しているオリジナルオーガニックアメニティに、新たに企画・開発したCICA※成分配合のフェイスマスクを順次導入。男女を問わず旅先でも安心してスキンケアを続けていただけます。

※ツボクサエキス



「ホテルの天然温泉における睡眠への効果」
を検証実験で確認

スーパーホテルでは、睡眠に特化した取り組みの一環として各店舗で天然温泉の導入を行っています。そこで、温泉や入浴に関して研究されている秋田大学の上村佐知子准教授と株式会社ブレインスリープの西野精治医師と共同し、以下の方法で検証実験を行いました。

- 検証方法 20～60代の18名に、右の①～③の宿泊を体験していただき、「脳波」「アンケートでの感想」「体温」の3方向から検証しました。
- 宿泊条件 ① 就寝前に温泉に浸かる日(温泉条件)×3日間
② 就寝前に客室の湯船に浸かる日(客室浴条件)×3日間
③ 朝にシャワーを浴びる日(朝シャワー条件)×3日間

〈結果〉温泉に入る日は…

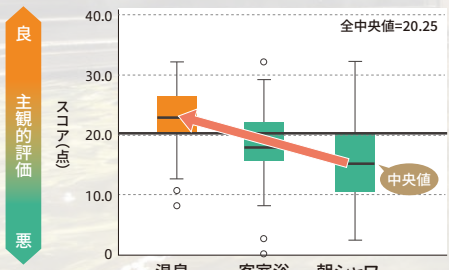
1 寝つきが良くなる

入眠潜時が朝シャワー⇒客室浴⇒温泉の順で短くなる傾向に。

中央値	温泉	客室浴	朝シャワー
入眠潜時 (寝つくまでにかかった時間)	560秒	680秒	870秒

※分換算：温泉9.3分、客室浴11.3分、朝シャワー14.5分

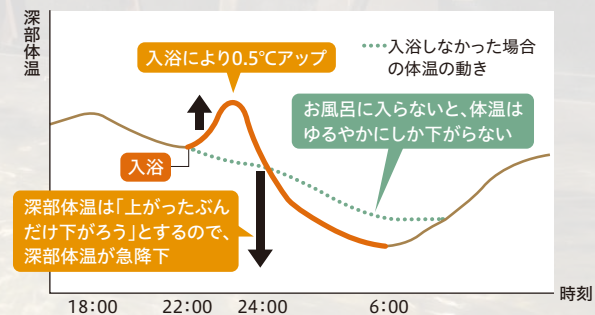
2 目覚めが良く、睡眠の質が高くなる



※18名のデータ
※統計結果：Friedman検定から3条件の間に有意差あり(p<0.05)

アンケートによる主観データの結果、起床時眠気(起床時に意識がはっきりしているか)・入眠と睡眠維持(寝つきの良さや安定して眠れたかどうか)が朝シャワー⇒客室浴⇒温泉の順で高くなる傾向に。

3 深部体温が下がりやすい



就寝前に一時的に深部体温を上げるとスムーズかつより大きく深部体温が下がり、良質な睡眠につながるとされていますが、深部体温の変化が朝シャワー⇒客室浴⇒温泉の順で大きくなる傾向に。

天然温泉は「ぐっすり」「すっきり」に効果的である

天然温泉には睡眠促進作用により
熟眠感を与える効果があります

出張や旅行で疲れた時、体を休め、リフレッシュできるのはなんといっても温泉浴です。温泉はその多くが強い加熱効果を持ち、家庭浴より深部体温が上がります。人間の体は深部体温を下げようとする時に強い眠気を催すため、温泉には睡眠促進作用があり、熟眠感を与えるからです。今回のスーパーホテルの天然温泉の研究においても急激な深部体温の上下動とこれに起因する寝つきのよさが実証されました。私も出張の際にはぜひ利用したいと思います。



上村 佐知子 准教授

秋田大学大学院医学系研究科
保健学専攻理学療法学講座准教授

Well-keeping

地域も地球も幸福に

ホテル業界唯一のエコ・ファースト企業として

持続可能な地球と社会の実現を目指す一。

人に、地域に、よりよい循環が生み出せたなら

生きることはもっと楽しく、幸福になる。

すべてのステークホルダーが

ずっと“WELL”でいられるように、

スーパーホテルは挑み続けます。

ECO FIRST

ECO FIRST
環境大臣認定
エコ・ファースト企業

エコ・ファーストとは、企業が国に対し環境保全に関する取り組みを約束する制度。その活動が先進的で独自の、かつ業界をリードする場合のみ認定されます。環境省では原則として「1業種に1社ずつ」を掲げており、スーパーホテルはホテル業界唯一のエコ・ファースト企業です。



グリーンツアーを開催

自然豊かな東白川村、諸塚村で 人と緑の持続可能な関わり方を考える

スーパーホテルでは従業員の環境意識を高めるために「グリーンツアー」を毎年開催しています。中山間地域が抱える課題を認識し、試行錯誤や協働する場を通して自発的な貢献活動や社会参加を促すこの取り組み。2025年は8月に岐阜県の東白川村と宮崎県の諸塚村にて1泊2日のプログラムで行われ、参加者たちは現地の自然や産業、文化や食、そして人々にふれながら、持続可能な暮らしや農林業の関わりについて学びました。



岐阜県・東白川村

2025年8月3～4日

ヒノキオイルの原料を採取する里山について、持続可能な里山での暮らしと農林業の関係性をテーマに研修を実施。1日目は東濃松が立ち並ぶ母樹林公園を視察し、伐採作業の見学と松葉集め作業を体験。「持続可能な地域経済とは？」をテーマにしたシンポジウムで意見交換も行いました。2日目は無農薬栽培の試験圃場で米づくり作業を体験。地場産業である白川茶農園を見学後、お茶の火入れやおいしい淹れ方について教わりました。

宮崎県・諸塚村

2025年8月5～7日

今年「世界農業遺産」(FAO)認定から10周年を迎える諸塚村では、林業を中心とした村の産業について全般的に学べる研修を実施。1日目は製材工場と、特産品のしいたけやきくらげの栽培現場を見学し、オーガニック食材について学びました。2日目は無農薬のブルーベリーを採取したのち、間伐作業を体験。木材での小物づくりを通してSDGsについて考えました。諸塚村長や村役場の方々と交えた意見交換会では諸塚村と協働し何ができるかを考え、発表と意見交換を行いました。

東濃松の卒業証書進呈事業に協賛

地域産業である林業の振興と 子どもたちの誇りを醸成

岐阜県東白川村の主産業のひとつである東濃松。有数の林業地である当地で育つ子どもたちに、故郷や地域林業への認識と理解、地元に対する愛着を育みながら成長してもらうことを願って、2015年より中学校の卒業生に東濃松のできた卒業証書が贈られてきました。スーパーホテルは特定非営利活動法人青空見聞塾が企画する本取り組みへ賛同・協賛。将来の地域や地域林業を担う子どもたちに向けて林業の専門家を派遣する「木の日 林業講和」の開催も含めて、地元への誇りと愛着を育む活動を支援しています。



世界農業遺産・阿蘇の草原保全に向けたイベントを実施

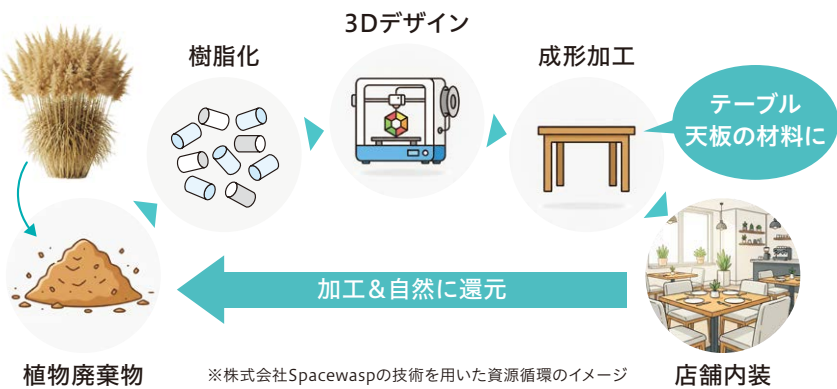
刈り取ったススキをホテルの家具に活用し
地域共創と持続可能な社会に貢献

スーパーホテルは、阿蘇の草原保全に取り組む公益財団法人阿蘇グリーンストック、植物性廃棄物を内装や家具に変換する独自技術を持つ株式会社Spacewaspと連携し、阿蘇の地域資源を活かした新たな価値の創造に取り組んでいます。

阿蘇の草原は1000年以上前から地域の方々による野焼きによって維持されてきた世界的にも貴重な景観で、2013年に「世界農業遺産」(FAO)に認定されています。しかし近年、生活様式の変化や地域産業である畜産業の後継者不足に伴い野焼きの担い手不足が深刻化し、草原の減少が大きな課題となっています。そこで、イベントで刈り取ったススキを、2025年6月21日(土)に開業したスーパーホテルPremier阿蘇熊本空港のラウンジで使用するテーブルの天板材料として活用する取り組みを実施。3社それぞれの持つ強みを活かして、阿蘇の草原保全という地域課題の解決に貢献するとともに、持続可能な社会の実現を目指しています。



地域資源の茅(ススキ)を活かした新たな価値を創造



開業に先立ち開催されたファンミーティングではススキを使ったワークショップが行われました！



「食品廃棄ゼロ京都プロジェクト 食品ロスゼロ×食品リサイクル100%」へ参画

食べ残しを飼料にしてできた卵を朝食で提供
食品リサイクルループにより、食品ロス削減へ

スーパーホテルは、公益財団法人Save Earth Foundationが事務局となって推進した環境省の令和4年度食品廃棄ゼロエリア創出モデル事業である「食品廃棄ゼロ京都プロジェクト 食品ロスゼロ×食品リサイクル100%」事業に参画しています。京都市内の外食・小売企業5社1団体と協働し、店舗や施設から出る食品残さを再生利用事業者にて飼料化し、それをもとに給餌し生産された鶏卵を買取って、再びお客様に提供する食品リサイクルループを構築しました。本取り組みは、農林水産大臣、環境大臣、厚生労働大臣から食品リサイクル法に基づく再生利用事業計画の認定を受け、店舗から出る食品残さを資源として活用する活動として進めています。

お客様とのコミュニケーションを通して食べ残しの削減を進め、それでも出てしまう食品ロスは発生原因を探って抑制。食品ロスの削減は廃棄・焼却時に排出されるCO₂削減にもつながり、脱炭素社会の推進にも貢献します。

- 旅館・ホテル：食べ残し削減啓発活動
- 外食店舗：食べ残しゼロ(motteco)の普及活動
- コンビニ：てまえどりの啓発



お客様×地域×ホテルの「三方良し」へ

「ご当地応援ボード」で
コミュニケーションを活発化

スーパーホテルのスタッフが各地の文化や魅力を発掘し、宿泊客と地域の架け橋となる「ご当地結びスタ」。その取り組みの中で、お客様とさらにコミュニケーションがとりやすくなるよう、2024年7月から4店舗が中心となって「おもてなし向上委員会」を発足。そこでの議論&実践を経て全店舗展開となったのが、方言を交えて地域の特産品や観光スポットなどを紹介し、お客様参加型の「ご当地応援ボード」。双方向のやりとりを増やすことによって、何度もその地を訪れたくなる魅力づくりにつなげています。



新たな価値をともに創る

Message



公益財団法人
阿蘇グリーンストック
専務理事
増井 太樹様

この度の取り組みに際し、スーパーホテル様およびSpacewasp様のご協力に心より感謝申し上げます。今回、刈り取ったススキがホテルの家具として新たな命を得ることで、阿蘇の草原の価値が社会に広く伝わることを大変嬉しく思います。新たな地域資源の循環利用を模索することは、草原の持続性を高めるだけでなく、新たな価値の創出にもつながり地域の誇りや次世代への自然環境の継承にも貢献できるものと期待します。今後も、企業・地域住民等との連携を深めながら、皆様と共に新たな価値を創出し阿蘇の自然と文化を未来へつなぐ取り組みを進めてまいります。持続可能な社会の実現に向けて、これからも共に歩んでいきましょう。

イノベーション委員会の取り組み

イノベーション委員会とは？

山本社長を中心に主要店舗の支配人や本部のメンバーが集まってイノベティブなアイデアを出し合うイノベーション委員会。2024年2月のスタート以来、20年後にスーパーホテルが「誰に」「何を」「どのように」「何のために」提供できるホテルであるのか、というビジョンに向けた具体的なプロジェクトを次々と立案しています。

大義

- ① 誰に 世界中の人々に
- ② 何を 日本の魅力的なコンテンツを
- ③ どのように 最先端技術を駆使することで引き出し、官民一体となって地域創生を実現し、
- ④ 何のために 日本を元気にする

モーニング子ども食堂

貧困家庭支援や孤食対策として子どもたちに笑顔あふれる朝食を提供

様々な事情を抱える子どもたちが安心して集まり、温かいつながりを感じられる場所を作ることを目的として、スーパーホテル東京・赤羽駅南口の若松穰統括支配人が起案し、2025年3月にスーパーホテルとして初めて「モーニング子ども食堂」を実施しました。期間中は6日間で24組の親子が参加し、好評のお声をいただきました。今後とも家庭の経済状況に関係なく誰もが食事を楽しみ、孤立を防ぐ場所づくりに貢献していきます。



参加者の声 ▶ 「友だちと食べられて楽しかった!」「有機納豆やオーガニックの食材はうれしい!」「親の私がリフレッシュしちゃいました!」

長野県にある家具工房とコラボレーション

収穫時期を迎えている唐松材を有効利用し地域の抱える課題解決へ

スーパーホテル松本・お城口、松本駅前のある松本市では、松くい虫の被害にあった赤松材や収穫時期を迎えている唐松材の有効活用が課題でした。そこで、長野県にある家具工房であるレッドハウスファニチャー様と協働し、プラスチック製カラーコーンに代わる「Wood Pylon KOLMIO」を松本管内の朝日村産材のうち、構造材として適さなかった唐松材を利用して作成いただくことに。そうしてできた三角コーンを館内で使用することで、構造用不適格材とはいえ製品として全く問題ないことをアピールし、製品価値を高めて販売促進に貢献。官民一体となって課題解決に取り組みました。



写真左：レッドハウスファニチャー 代表 増田様
写真右：スーパーホテル松本・お城口、松本駅前 渡邊統括支配人



私たちはホテル業界唯一の環境大臣認定エコ・ファースト企業です

エコ・ファースト企業とは

業界内でも特に先進的な環境保全運動に取り組む企業を、環境大臣が「エコ・ファースト企業」に認定する制度。「企業が、環境大臣に対し、地球温暖化対策、廃棄物・リサイクル対策など、自らの環境保全に関する取組みを約束する」「その企業が、環境の分野において“先進的、独自のかつ業界をリードする事業活動”を行っている企業（業界における環境先進企業）であることを、環境大臣が認定する」という前提条件のもとに認定を受けます。業界における環境保全の推進企業として認められた証です。

スーパーホテル 3つの約束

進捗状況

1 脱炭素社会実現のために、事業活動におけるCO₂排出量を削減します

- 再生可能エネルギーの導入や電力証書の導入、カーボン・オフセットの活用を推進し、2030年度までにホテルのCO₂総排出量46.2%のCO₂削減（2019年度比）、2043年度にカーボン・ニュートラルを目指します。
- 公式ホームページからご予約いただいた宿泊に対して、宿泊時に発生するCO₂排出量の100%をカーボン・オフセットする「ECO泊」を推奨し、ビジネスや観光におけるエコ旅行を推進します。
- 「ECO泊」におけるカーボン・オフセットの信頼性を確保するために、第三者認証を毎年取得します。
- 連泊時に清掃を行わない活動「エコひいき」を一層推進し、1回の客室清掃に必要な水約7ℓ、リネン洗濯における水約14ℓ（CO₂排出量0.07kg）の削減を推進します。
- エアコンの設定温度の表示や、清掃時の客室照明の消灯といったISO14001の運用に伴う環境負荷低減活動に取り組みます。

- 2024年度はカーボン・オフセット調整後の排出量が7,945t-CO₂となり、2019年度比で43.38%減の結果となりました。CO₂実質ゼロ泊が全宿泊対象になったことにより、客室数は増加している中、総量は減少することができました。2025年度は引き続きCO₂実質ゼロ泊を推進するとともに、2043年度のカーボン・ニュートラルに向けて取り組んでまいります。
- 2024年度はECO泊（2024.4～9）1,204,240泊・CO₂実質ゼロ泊（2024.10～2025.3）2,860,332泊のご協力をいただき、15,704t-CO₂のカーボン・オフセットを実現しております。
- 2024年度も昨年に引き続きカーボン・オフセットの信頼性確保のために、カーボン・オフセット認証の第三者認証を取得しております。
- 2024年度は清掃不要のお申し出に2,038,463件のご協力をいただきました。2023年11月よりエコひいき清掃の強化を行い、清掃不要の件数は2023年度比で67.1%の増加となりました。今後もより一層推進し、客室清掃に必要な水の削減に取り組めます。

2 自然との共生実現のために、生物多様性の保全に向けた活動に取り組みます

- 朝食において環境配慮農産物（オーガニック野菜、特別栽培米、有機・特別栽培食材等）を全店で積極的に導入します。
- 国産木材をホテル内の備品や内装などに積極的に活用し、林業やそれに携わる地域創生に貢献します。
- 中山間地域で行う社員研修や地域でのボランティア活動など、自治体・NPO・地域コミュニティなどと連携して実施し、森林環境の保全・生物多様性の配慮に取り組めます。

- 2012年度から引き続き、オーガニックサラダを継続導入し、他にもユーロリーフ認証を取得しているパン（BIOロール）や味噌やお米・有機大豆を使用した醤油の導入など、順次環境配慮農産物を使用した食品を導入しております。
- 岐阜県東白川村と提携した木材活用による地域活性化の取り組みの一環で導入していたヒノキアロマを、2025年4月からは全国108店舗で脱衣所にも設置。大浴場では、ヒノキの木材に触れて頂けるようヒノキリングを導入。五感で木材や地域を感じて頂ける取り組みを進めています。今後も新たな地域との共創を進めます。
- 2024年度は岐阜県東白川村と宮崎県諸塚村の2地区に分けてグリーンツアー研修を行い、農林業との関わりについて学びました。また、Premier阿蘇熊本空港では、地域のボランティアの方と茅刈り活動を実施。そこで刈った茅材をラウンジのテーブル天板に活用、スーパーホテルのファンを交えた茅材のオブジェづくりのワークショップを開催するなど、ホテル・地域・お客様が一体となり、地域活性化を進めています。

3 社員一人一人が環境意識向上に努め、お客様を巻き込んだ環境保全活動に取り組めます

- 社員の環境意識向上に努め、eco検定®（環境社会検定試験）取得を推進し全社員合格を目指し、社員一人一人が事業活動におけるさまざまな環境活動に取り組めます。（取得率92.86% 2021年3月時点）
- ホテルの立地する地域の子供たちや学生に向け、ホテルが取り組む環境保全活動を学習する機会を設け、環境意識の醸成に貢献していきます。
- FUN TO SHAREやCOOL CHOICEの活動に賛同し、ホームページ・公式SNS等を通し、SDGsの取り組みや魅力を伝えることで、家庭や会社でできる環境負荷低減活動を啓発します。
- お客様一人一人にホテルフロントにて「ECO泊」「エコひいき」の案内を積極的に実施し、環境負荷低減の啓発活動を推進します。

- 引き続き、eco検定®を社内推奨資格として推進しております。社員の取得率は90.70%（2025年3月現在）となっています。
- 大阪・関西万博では、1年目の社員を中心に、ジュニアSDGsキャンプに出展。小中学生を中心に、身近な環境問題について考えて頂きながら、スーパーホテルのサステナブルな取り組みについて紹介。ホテルで使用しているヒノキアロマのルームスプレー作りを体験していただきながら、地域連携や木材活用の重要性について体感していただきました。引き続き産学連携・地域貢献に努めてまいります。
- 2024年10月からは「ECO泊」を進化させた「CO₂実質ゼロ泊」を開始。チェックイン時にご案内している他、CO₂実質ゼロ泊やエコひいきといったコンセプトを伝える紙コップを導入。お客様と共に進めるサステナビリティ活動を推進します。

株式会社スーパーホテルは、上記取り組みの進捗状況を定期的に確認し、その結果について環境省に報告するとともに、ホームページなどを通して公表してまいります。

スーパーホテルの環境マネジメント

環境理念

地球環境保全の為に、
地球にやさしく
環境を大切にする
企業を目指します。

株式会社スーパーホテルは、地球環境の保全が人類共通課題の一つと認識し「常に安全・清潔・ぐっすり眠れるスペースを創造し、世界的レベルでの質の高いサービスを提供する」との経営理念及び環境理念に基づき、地球にやさしく環境を大切に豊かな自然と快適な環境を次世代に継承していくための活動を行っています。

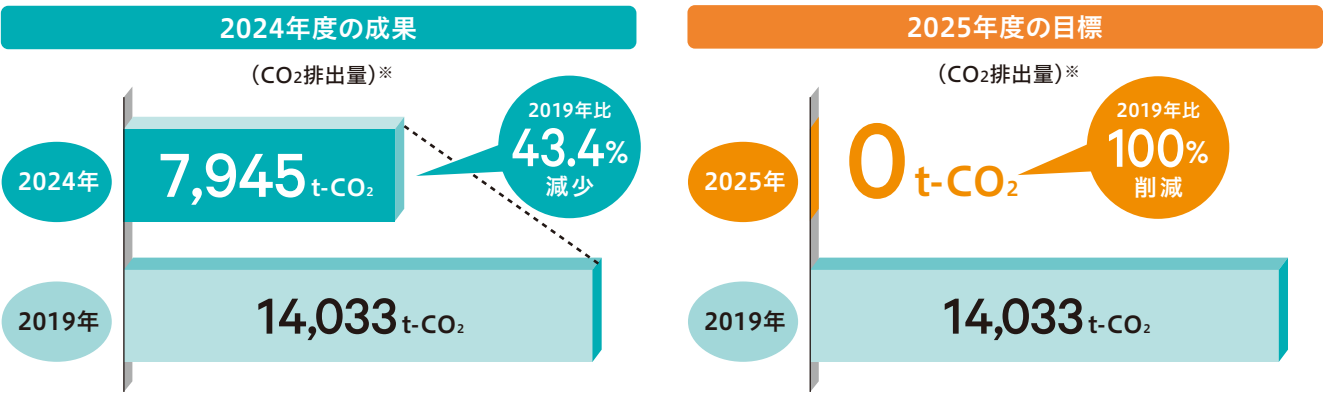


環境マネジメントの推進体制

地球環境の保全に配慮した経営を実現するため、環境経営推進体制を敷いています。環境管理責任者のもと、環境目標の達成状況の確認や環境情報の共有化などを行っています。また、年1回の内部環境監査と外部認証機関による監査を実施。内部環境監査では、社内で監査チームを編成して定期的にチェックを行っています。

脱炭素社会の実現に向けたCO2排出量の「成果」と「目標」

日本政府は温室効果ガスの排出量を2050年までに実質ゼロにするというカーボン・ニュートラルを宣言しています。スーパーホテルも「エコ・ファーストの約束」において2030年度までにホテルの温室効果ガス総排出量を46.2%減にし、2043年度までにカーボン・ニュートラルを実現すると公表し、脱炭素社会実現に向けた目標に取り組んでまいります。2024年度も新店舗のオープンによる店舗数の増加や宿泊客の増加が続いていますが、2024年度からCO2実質フリー電力の採用を全店舗にて行ったことにより、温室効果ガスの排出量全体は前年度比で約7,480t減少しております。また、1泊あたりの温室効果ガス排出量も約3.9kg/泊となり、減少傾向で推移しております。

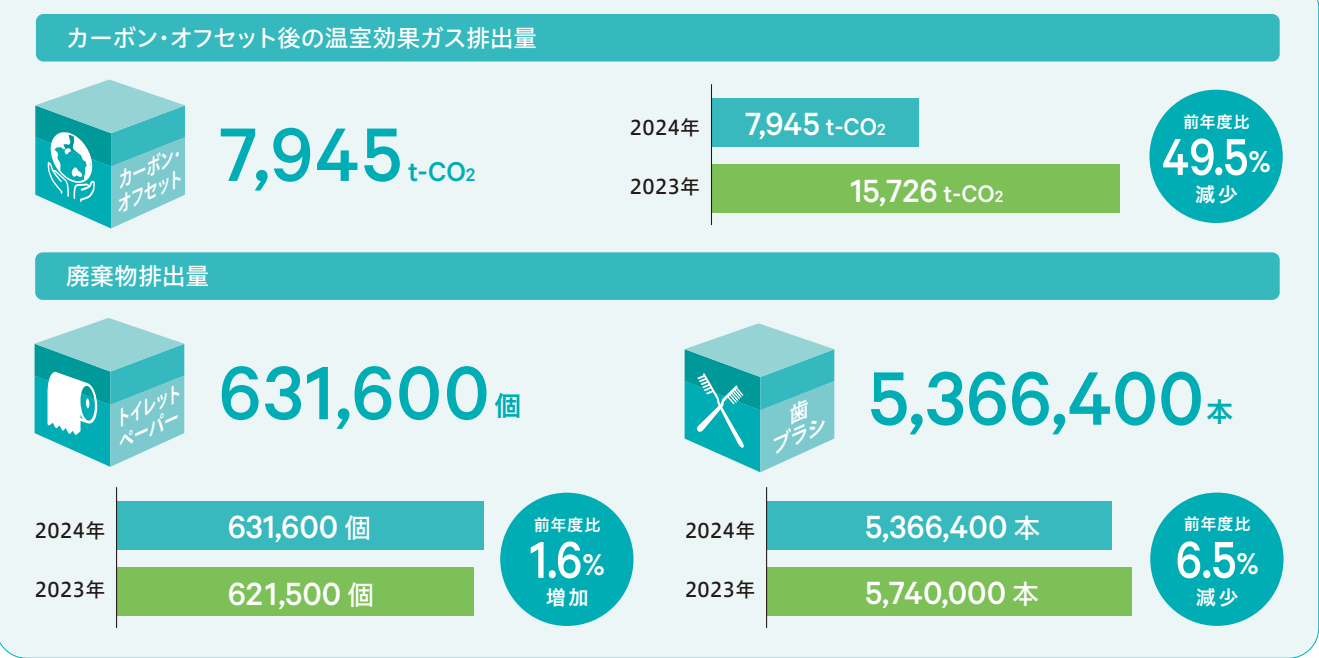
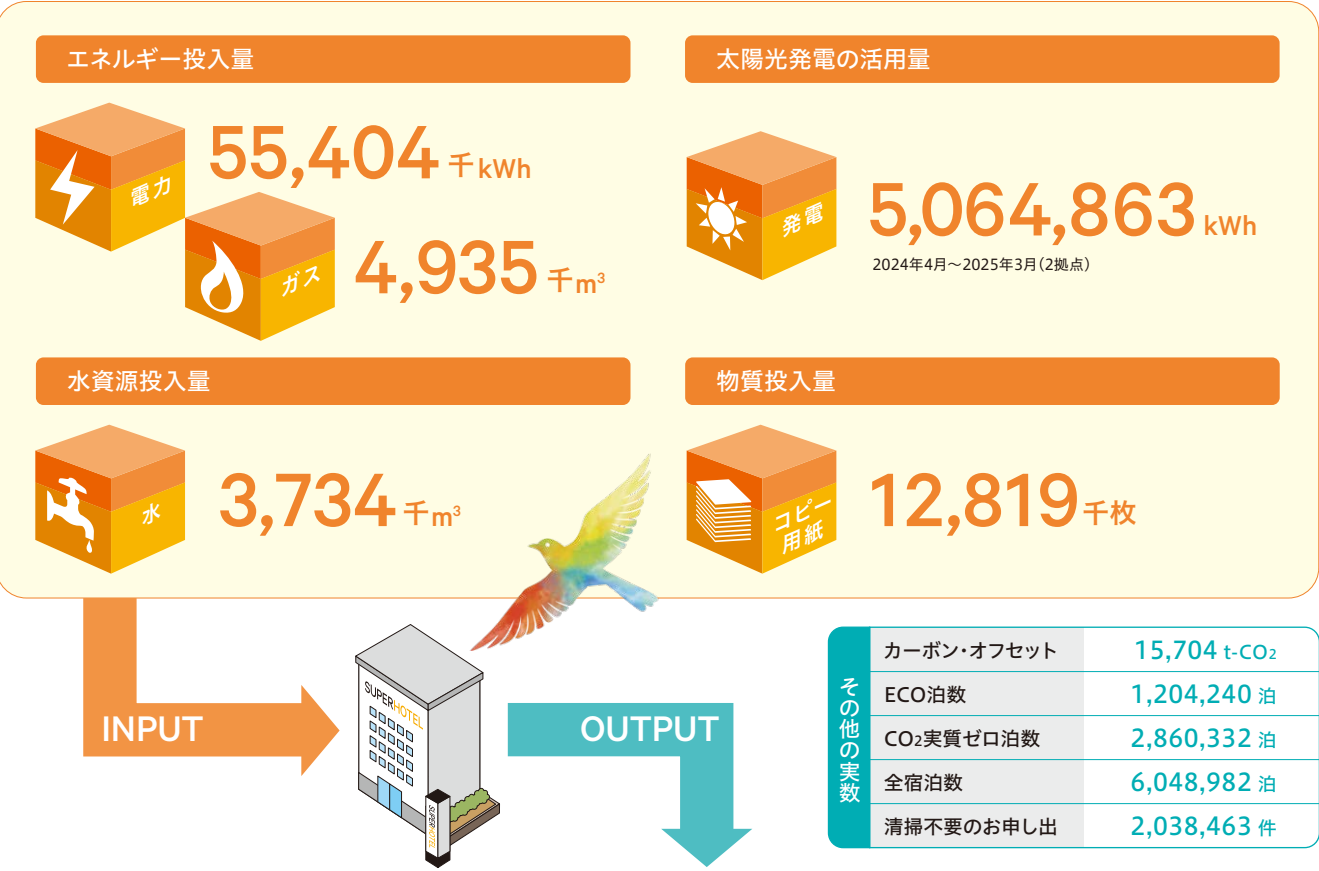


※カーボン・オフセット後のScope1,2におけるCO2排出量

2024年4月～2025年3月時点

環境負荷の全体像

2024年度は宿泊客の増加、新店舗のオープンなどによってエネルギー投入量および水資源投入量・物質投入量は増加しました。全店舗でのCO2実質フリー電力の採用等CO2実質ゼロ泊の推進により、カーボン・オフセット後の温室効果ガス排出量は大幅に減少しています。



Well-working

働くひと を幸福に

従業員がいいきと働けていれば、
ホテルのサービスや雰囲気になんと表れ、
お客様にも必ず伝わる。

「幸福」は、よい循環が生まれる源です。

社員満足度＝顧客満足度という位置づけのもと、
スーパーホテルでは様々な角度から
働くひとのWellnessを追求しています。



SUSTAINA
HOTEL



サステナワークショップを開催

未来への展望と自社理解、 スーパーホテルへの愛を深める

「自社の強みを再認識する」、「サステナブルへの関心度を高める」、「未来価値を自分ごと化する」の3つを目的に、社員同士で集まってワークショップを開催。ポジティブな内容を、全員が発言することを決まりごととして、チームに分かれてクイズ形式で競ったり、各チームからの発表を通して意見交換を行い、自社への理解と部署を超えたコミュニケーションの深化につなげました。

参加者の声

- 楽しみながらサステナブルに関心が持て、様々な人の意見や考え方が参考になった。
- 自社の未来と、その中で自分にできることを考える良いきっかけでした！



- 部署関係なくサステナブルについて考え、意見交換できたのが良かった。
- 改めて「スーパーホテルが好きだ」と確認できました！
- 他の社員やベンチャー支配人にも体験してほしい。

スパホ女子ワークショップを開催

女性の視点で働き方や サービスをブラッシュアップ

スーパーホテルの従業員は女性が半数以上を占めています。そんな女性たちが働きやすく、活躍できる環境づくりの一環として、スパホ女子ワークショップを開催しました。当日は部署や年齢などを越えた共感や発見が多くあり、同性で話すことから安心感も育まれました。

<第一部>

テーマ別ディスカッション

「家庭・育児との両立」、「仕事全般（キャリア・モチベーション）」、「将来全般（健康・介護等）」という3つのテーマで、グループで意見交換を行いました。



<第二部>

アメニティワークショップ

スーパーホテルで提供しているアメニティのこだわりを、開発担当者からレクチャー。専門的な知識を学ぶことで訴求方法にも工夫が生まれました。



<第三部>

女性のためのサービス開発

「女性比率・女性満足度向上のためにできること」をテーマにお客様へのプランを考案。旅先での荷物を減らす「持ち物ゼロプラン」や「旅マエInformation」などが挙げられました。



グローバル人財育成プロジェクトを実施

人手不足の解消と国際化を両立し
組織の活性化やイノベーションにつなげる

スーパーホテルは、店舗のあるミャンマーを起点としたグローバル人財の育成・採用と、「ベンチャー支配人制度」という独自の人財活用モデルによって、サービス業界の抱える課題の解決を図っています。

スーパーホテルグループの「SHHAM（スーパーホテル・ホスピタリティ・アカデミー・ミャンマー）」では、現地送り出し機関会社としてサービス業に特化したミャンマー人の採用・育成を促進。2024年9月から日本のスーパーホテルでの受け入れが始まりました。先述の制度の活用も含め、2025年9月時点で、グローバル人財の支配人・副支配人の着任を10店舗にて展開。労働力不足の解消や多様化するインバウンド需要に柔軟に対応できるだけでなく、組織の活性化やイノベーションにもつながる本取り組み。日本と母国をつなぐ架け橋になることも期待しています。



「奨学金代理返還制度」を導入

経済的な負担を軽減し、
若者がより安心して働ける環境へ

スーパーホテルでは、従業員満足はお客様満足に繋がるという経営理念に基づき、働きやすい職場環境の構築を推進しています。その一環として、2024年4月1日より「奨学金代理返還制度」を導入。就職後も返済への経済的負担を感じる若者が多い中、働きやすく充実した日々を送れるよう日本学生支援機構から奨学金の貸与を受けた従業員に代わって最長10年間、月額最大3万円を代理返済。経済的・心理的な負担を軽減することで、安心して働ける職場環境づくりを進めています。



健康経営の取り組みを推進

社員の活力を上げることで
お客様の満足につなげる

スーパーホテルでは、創業時よりLOHAS (Lifestyles of Health and Sustainability) をホテル運営の基本コンセプトに掲げ、人も地球も元気にする企業を目指しています。お客様に最高のサービスをご提供するためには、まず社員自身が心身ともに健康で、活き活きと働けることが不可欠だと考えています。「社員自身の健康なくしては、お客様に感動を提供することはできない」という考えのもと、社員一人ひとりの健康増進を積極的に支援し、お客様へのより質の高いサービスにつながるよう、さまざまな「健康投資」を行っています。

スーパーホテルの健康経営の考え方



からだ

- ◆運動イベントの実施
- ◆保健指導の実施
- ◆睡眠セミナーの実施
- ◆禁煙に関する研修の実施
- ◆婦人科がん検診の費用補助



こころ

- ◆ストレスチェックの実施
- ◆集団分析の実施
- ◆管理職へのメンタルヘルス研修
- ◆産業医による相談窓口



働きがい

- ◆従業員エンゲージメントの最高評価「AAA」を継続
- ◆働きがいのある職場づくりを推進

健康投資効果

心身ともに健康で活き活きと働く従業員の増加

- 従業員がパフォーマンスを発揮しやすい環境や取り組みを推進
- 従業員の会社への満足度向上
- メンタルヘルス不調者の低減
- 不健康や疾病による離職者の低減
- 生活習慣病対象者割合の低減
- ストレスを早期にケア
- 組織の活性化とサービスの質を向上

「日常の感動」のご提供に通じた顧客満足度日本一のビジネスホテルを目指す

- 自律型感動人間の育成を通じた従業員満足度の向上
- 社員・家族の幸福追求と夢の実現の支援
- 心のこもったおもてなしでお客様に「日常の感動」をお届けする

健康経営で
解決したい経営課題

人を元気に、地球を元気に

これらの取り組みを通じて、社員が健康で最高のパフォーマンスを発揮できる環境を整え、お客様満足度のさらなる向上に努めてまいります。

Column

「健康経営優良法人2025(大規模法人部門)」に認定

スーパーホテルは、経済産業省と日本健康会議が共同運営する「健康経営優良法人2025(大規模法人部門)」に認定されました。今後も「健康経営」を重要な経営課題ととらえ、従業員一人ひとりの心と体の健康がイノベーションを生み出す原動力と考え、従業員やその家族の健康促進を一層努めるとともに、事業を通じて地域や社会に貢献してまいります。



大盛り上がりの運動イベントは
社員間交流の推進にも！





スーパーホテルで培ったパートナーシップを活かし
尾道の古民家で「暮らすように働く」

「水尾之路」

オーナー 村上 章裕さん・岡本 美穂子さん

「水尾之路」
広島県尾道市西久保町15-5

夢に向け、歩み始めた二人に ペア解消にまで発展する試練が！

アパレル業界で出会い、パートナーとして共に歩んできた村上さんと岡本さん。当時勤めていた会社で16年間、マネジメント職としてのキャリアを積んだ村上さんでしたが、「いつか自分の言葉で商売がしたい」という夢を抱き、岡本さんもまた二人の未来を模索していました。そんな中、リーマンショックが会社を直撃。利益優先へと変わっていく社風に違和感を覚えた二人は退職を決意し、共通の夢だったカフェ開業を目指すことに。地元に近い尾道で物件を探し始めたものの、すぐに「自己資金」という高い壁に直面。そんな八方塞がりの状況で出会ったのが、スーパーホテルの「Super

Dream Project」でした。

覚悟を決めて飛び込んだ二人でしたが、待っていたのは想像以上に厳しい現実でした。特に村上さんはホテルならではの接客に苦戦。「前職では有名なブランドを扱っていたため、知らず知らずのうちに上から目線の接客が染みついてしまっていたんです。仕事の飲み込みも彼女の方が早くて…」と、自信を失っていた村上さんに対して、未経験ながらも着実に成長する岡本さん。かつての上司と部下という関係性が逆転し、二人の間には深い溝が生まれていったそうです。次第に会話はなくなり、夢を語り合うはずだった宿直室は息が詰まるような空間に。着任から2年、「もう一緒に続けるのは無理だ」と、本社にペアの解消を申し出る事態にまで発展しました。

(経歴)

2011年7月 スーパーホテル鳥取駅北口 着任

2013年9月 スーパーホテル米子駅前 着任

2017年10月 「水尾之路」をオープン

逆境の中で生まれた 揺るぎないパートナーシップ

そんな二人が発したSOSに対して、「本部スタッフは親身に面談の場を設けてくれ、溜め込んできた想いをすべて受け止めてくれました」と岡本さん。「それまで誰にも弱さを見せられず二人だけで問題を抱え込んできましたが、そんな風に頑張る必要はないと、その時に気づけたんです」。このことが転機となり、二人は初めて本音でぶつかりあい、お互いの弱さも強さも受け入れられる本当の意味でのパートナーに。

その後、村上さんは「この4年間は自我を出さない。出家した気持ちでいよう」と決意し、「人の良さと誠実さなら、スキルがなくてもできる」と、誰よりも真摯に人や業務と



1階はカフェで、ランチや休憩のみの利用もOK。ケーキやドリンクなどのメニューも自分たちで開発しています。



2階は、白と茶と銀で統一された落ち着いた空間。宿泊は一日一組限定です。



古いものと新しいものが絶妙に調和し、凛とした静寂が漂います。

＼独立開業の夢を叶える／ Super Dream Project®



尾道のメインストリートから少し離れた路地裏にある、築80年の別荘建築をもとにした『水尾之路』。坪庭と縁側の窓からは、穏やかな光が降り注ぎます。

向き合う道を選びました。その姿勢は周囲の信頼を育み、「かわいがってもらってこそ商売は成り立つ」という本質を知るきっかけにつながりました。

自分たちだけの場所を創る一。 学びを形にするための2年間

スーパーホテルでの任期満了の日、すべての業務を引き継いだ村上さんはその足で美容院へ向かい、髪を金色に染め上げました。それはまさに4年の出家期間を経て新たな自分に会った瞬間でした。

卒業後、二人は開業を急ぐことなく、2年間の入念な準備期間を設けることに。村上さんはトレンドを学び直すために再びカフェの学校へ通い、岡本さんは同僚が運営するスーパーホテルでアルバイトをしながら、二

人で日本各地の気になるお店を巡ったそうです。それは「どこかの真似ではない、自分たちだけの場所」を創るための、徹底的な情報収集の旅でした。

そして運命的に出会ったのが、広島・尾道にあった「家が生きている」と感じた築85年の古民家。自分たちの都合を押し付けるのではなく、「家にお伺いを立てる」ように、その声を聞きながら理想の空間を創り上げていきました。

スーパーホテルでの学びが 満ち足りた日々の糧に

現在、二人は『水尾之路』で「暮らすように働く」という独自のスタイルを体現しています。ベンチャー支配人時代に住居と職場が一体となった環境に身を置いた経験が、この価

値観を育んだそうです。

「ブランドの世界観を第一に考えていたアパレル時代とは異なり、“自分の心持ちがお客様に伝わる”という感覚。トラブル対応で養われた、動じない問題解決能力。そして何より、互いを見つめ合い、圧倒的に認められるようになったパートナーシップ。スーパーホテルでの経験のすべてが、今の満ち足りた日々の糧となっています」と村上さん。最終的にはただのカフェではなく、“泊まれるライフスタイルショップ”という独自の業態にたどり着いたのも、スーパーホテルでの経験があったからこそだといいます。

かつては衝突を繰り返していたものの、今では阿吽の呼吸で店を切り盛りする二人。その姿は、これまでに得た最高のチームワークの証明だといえそうです。



村上さん

昔は肩に力が入った商売をしていましたが、スーパーホテルで自身の無力さと向き合い、誠実さを武器にお客様や地域の方々と関わり、信頼を積み重ねることで商売が成り立つという本質を学びました。あの4年間は回り道ではなく、今の自分になるために不可欠な時間だったと思います。



岡本さん

スーパーホテルでの時間は、パートナーとの関係性を見つめ直すための時間でもあります。この4年間で、二人だけで抱え込まず周囲のサポートを頼ることの大切さを学び、課題を共に乗り越えたからこそお互いを圧倒的に認められるようになったのだと思います。



Super Dream Project® とは



「Super Dream Project®」とは将来、独立・起業の夢をサポートするスーパーホテル独自の制度。2人1組が支配人・副支配人としてスーパーホテルを運営し、独立資金を貯めたり経営ノウハウと自信をつけることができるシステムです。

- 初期投資0円でスタート
- 快適な住環境も提供
- 独立後に役立つ経営ノウハウが学べる

- 報酬は4年間で4,750万円以上+奨励金+業績報奨金
(アテンダント補助費用含む／100室規模の場合 ※契約は1年毎の更新)
- 4年目以降も人生設計によりキャリアの選択が可能

SUPERHOTEL SDGsの歩み

2001

水俣市が独自に制定した旅館・ホテル向けの環境ISO取得をきっかけに環境への取り組みを重要課題に掲げるようにトイレトーパーやコピー紙を再生紙に切り替えたり、IT化によるペーパーレスを実施。



2011

エコ・ファースト企業に認定

環境省創設の「エコ・ファースト制度」においてホテル業界初の「エコ・ファースト企業」に認定。



2015

SDGsへの取り組みを表明

- 2012年 ●ECO泊におけるカーボン・オフセット割合を50%に。
●朝食にオーガニック野菜サラダやオリジナルドレッシングを提供開始。
- 2013年 ●三重県伊賀市に巨大太陽光パネルを設置し、再生可能エネルギー事業を開始。
- 2014年 ●ECO泊におけるカーボン・オフセット割合を100%に。
●アライバルカードのペーパーレス化を進めるエコチェックインの開始。
- 2015年 ●FSC 認証を受けた間伐材を使用した客室備品の導入開始。
- 2016年 ●第6回カーボン・オフセット大賞 環境大臣賞を受賞。
●滋賀県甲賀市で2つ目のメガソーラーが稼働。
●えるぼし企業に認定。
●㈱スーパーホテルクリーンを設立し海外人材採用を本格化。
- 2017年 ●バイオ生ゴミ処理機による資源循環サイクルを開始。
(スーパーホテルPremier武蔵小杉駅前)
●第12回 日本パートナーシップ大賞グランプリを受賞。
- 2018年 ●宮崎県諸塚村産のFSC認証木材を使用したリニューアルを実施。(スーパーホテル宮崎天然温泉)
●ブランドイメージの刷新。新しいホテルコンセプトとして「Natural, Organic, Smart」を展開。
- 2019年 ●木材の地産地消で地域の森を活性化する店舗づくりを開始。
●地域グルメと宿泊をコラボレーションさせた「食と泊」プロジェクト展開。

コロナ禍における挑戦

- 2020年 ●新型コロナ発生にあたり、大阪で第一号の宿泊療養施設に。(スーパーホテル大阪天然温泉)
●医学博士指導のもとで館内や従業員の防疫対策を徹底。
●可能な範囲でのリモートワークの推進。
- 2021年 ●コロナ禍で各店舗それぞれが独自のSDGs活動を推進。
●アテンダントが地域の魅力を発信する「ご当地結びスタ」スタート。
- 2022年 ●宮崎県諸塚村と包括連携協定を提携。

2025

- 2023年 ●リファラル採用、グローバル採用の強化。
●オーガニックな原材料のみを使用した無添加のパン「BIOロール」の導入。
●ファンミーティングの初開催。
●バイオマス歯ブラシの導入。
●エコひいき清掃の推進を強化。
- 2024年 ●再エネ電力の積極的導入。
●CO₂実質ゼロ泊のスタート。
●多様性に合わせた制服を導入。
- 2025年 ●ファンコミュニティ「超・集団」の結成
●「サステナブル・セレクション2025」三つ星に選定

社会からの評価



健康経営優良法人
大規模法人部門



経済産業省
日本健康会議
(2025年)

サステナブル★セレクション
2025三つ星



株式会社オルタナ
一般社団法人サステナ経営協会
(2025年10月)

JCSI(日本版顧客満足度指数)調査
ビジネスホテル業種
Standardクラス 第1位



公益財団法人日本生産性本部
サービス産業生産性協会
(2024年10月)

おもてなし規格認証
紫認証



経済産業省創設
サービスデザイン推進協議会
現Premier東京駅八重洲中央口(2023年)
Lohas JR奈良駅(2020年)

女性活躍推進法
「えるぼし」認定



厚生労働大臣認定
(2016年8月)

- 第6回 サービス・ホスピタリティ・アワード 優秀賞
公益社団法人企業情報化協会(2019年9月)
- 2009年度・2015年度 日本経営品質賞
経営品質協議会
2009年度 中小規模部門(2010年2月)
2015年度 大規模部門(2016年2月)
- 第1回 日本サービス大賞 優秀賞(Spring賞)
サービス産業生産性協議会(2016年6月)
- 平成22年度 地球温暖化防止活動環境大臣賞
環境省(2010年12月)
- 環境大臣認定エコ・ファースト企業
環境省(2011年4月)
- DBJ 環境格付2011 認定
DBJ 日本政策投資銀行(2011年12月)
- ワットセンスアワード2012(アクション部門)
環境大臣賞(2013年4月)

- エコマークホテル認定
スーパーホテルPremier銀座 他7店舗
公益財団法人 日本環境協会(2019年9月)
- 第22回 グリーン購入大賞 優秀賞
グリーン購入ネットワーク(2021年11月)
- 気候変動アクション環境大臣表彰 普及・促進部門
環境省(2020年11月)
- 第12回 日本パートナーシップ大賞グランプリ
ムラ流社会貢献型人材育成プログラム事業
パートナーシップ・サポートセンター(2017年3月)
- 地域未来牽引企業 選定 経済産業省(2017年12月)
- 第9回「日本でいちばん大切にしたい会社」大賞
審査委員会特別賞
人を大切にする経営学会(2019年3月)
- 第6回 カーボン・オフセット大賞 環境大臣賞
カーボン・オフセット推進ネットワーク(2016年12月)

スーパーホテル 2025年コンセプトムービー公開

人に、地球にやさしいホテル。 その想いを新たな映像に込めて発信

2025年、スーパーホテルは私たちの想いを込めた、新しいコンセプトムービーを公開しました。テーマは「人に、地球にやさしいホテル」。心温まる「おもてなし」で、まるでもう一つの我が家のようにお客様をお迎えし、一日の疲れを癒やす「ぐっすり眠れる」快適な空間で、明日への活力をチャージしていただく。そして、「CO₂実質ゼロ」の宿泊体験を通じて、美しい地球を未来へつなぐ架け橋となる。映像の一つひとつに込めたお客様と地球への想いは、公式サイト、公式YouTube、各客室等でご覧いただけます。

コンセプトムービーを
ご覧いただけます



会社概要		
■社名	株式会社スーパーホテル ホテルチェーンの展開／土地有効活用コンサルティング	
■代表者	代表取締役社長 山本 健策	
■本社	〒550-0005 大阪市西区西本町1丁目7番7号 CE西本町ビル TEL. 06-6543-9000 FAX. 06-6543-9008	
■東京本部	〒104-0028 東京都中央区八重洲2-1-8 八重洲Kビル 10階 TEL. 03-3241-9001 FAX. 03-3241-9009	
■設立	1989年12月20日	
■資本金	67,500,000円	
■従業員数	186名（2025年3月末時点）	
■売上高	545億 6,000万円（2025年3月期）	
■店舗数	国内176店舗、海外1店舗（2025年9月末時点）	

■関連企業

ホテル経営で培ったサービスとノウハウを活かし、クリーン事業や清掃スタッフの人材派遣をはじめ、高齢化社会に必要な介護施設や関連事業なども展開。多彩なビジネスで社会を支えています。

株式会社スーパーホテルクリーン

総合清掃業／清掃請負・コンサルティング業務／人材採用事業／人材派遣・紹介業

株式会社スーパー・コート

有料老人ホーム／パーキンソン病専門住宅／訪問看護ステーション／居宅介護支援事業所／福祉用具事業所

社会福祉法人 聖綾福祉会

特別養護老人ホーム／グループホーム／デイサービス施設の運営

医療法人嘉健会 思温病院

病院の運営・管理／地域医療サービスの提供

株式会社スタッフ満足(笑がおで介護紹介センター)

看護師・介護士の人材派遣・老人ホームへの入居仲介

取得規格

ISO9001

品質マネジメント国際規格ISO9001は、2025年3月現在の認証は163店舗。サービスの品質向上とラッキーコールゼロを目指した仕組みづくりを構築しています。

The logo for ISO9001 certification by ISCT. It features a red square with a white circle in the center. Inside the circle is a blue triangle pointing upwards. Below the circle, the text "ISCT" is written in white, and below the square, "ISO9001" is written in white.

ISO14001

環境負荷の低減を経営の重要課題と位置づけ、ISO14001の環境マネジメントシステムを導入しています。2025年3月現在の認証は本部機能と163店舗となっています。

The logo for ISO14001 certification by ISCT. It features a red square with a white circle in the center. Inside the circle is a blue triangle pointing upwards. Below the circle, the text "ISCT" is written in white, and below the square, "ISO14001" is written in white.

ISO27001

情報システムのリスク防止のため、情報セキュリティマネジメントシステムISO/IEC27001を導入。

2025年3月現在、本部DX戦略室、CS推進部、サービス管理部、レベニューマネジメント部において取得しています。

The image shows two accreditation logos side-by-side. On the left is the BSI logo, which consists of a stylized heart shape inside a circle, with the letters "bsi" above it. On the right is the ANAB logo, which includes the text "ANAB" in large blue letters, "AND NATIONAL ACCREDITATION BODY" in smaller blue letters, "ACCREDITED" in red letters, and "MANAGEMENT SYSTEMS CERTIFICATION BODY" in blue letters.

IS502075/ISO27001

第三者意見

近年、企業の社会的価値創出を定量的に示す手法として、SROI(Social Return on Investment:社会的投資収益率)が注目されています。SROIとは、従来の財務的ROI(投資利益率)を拡張し、企業の活動が社会・環境・地域・人々にどのようなポジティブな変化をもたらしたかを金銭換算し、その便益を投資額で割って評価するフレームワークです。この手法は、社会的インパクト投資やESG経営の定着とともに、企業のサステナビリティ評価において国際的に広がりつつあります。

SROIの特徴は、財務指標だけでなく、関係者(ステークホルダー)の視点に基づいて「社会的価値が見える化する」ことにあります。定性的な価値を定量的に測ることは容易ではありませんが、社会課題解決型企業にとって、事業の意義を客観的に示す有効な手段といえます。

この観点からスーパーホテルの取り組みを見ると、環境、健康、地域など多面的な分野で社会的価値を創出しており、SROI算定に適した活動を複数展開しています。まず第一に注目されるのは、「CO₂実質ゼロ泊」プログラムです。宿泊に伴うCO₂排出を自然エネルギー由来等のクレジットで相殺し、年間約24,000トンの削減効果を生み出しています。

この取り組みは、気候変動対策という地球規模の課題に直接貢献するものであり、炭素1トンあたりの社会的費用を約15,000円と仮定(注)すると、その社会的便益は数億円規模に達する可能性があります。また、東白川村および諸塚村の森林由来のクレジットも使用しており、森林保全にも貢献しています。

次に、顧客の健康・ウェルビーイング向上に関する取り組みもSROIの観点から評価できます。同社は「ぐっすり眠



おおわだ じゅんこ
大和田 順子 教授

教育テック大学院大学 教授
総務省・地域力創造アドバイザー

れるホテル」をコンセプトに、天然温泉や選べる枕、ヒノキアロマ、イオン水など、科学的エビデンスに基づいた睡眠環境づくりを推進しています。良質な睡眠はストレス軽減や免疫機能改善に寄与し、長期的には医療費削減などの社会的便益をもたらします。このように、宿泊を通じて顧客の心身の健康を支援する同社のサービスは、「健康資本」への投資として社会的リターンを定量化できる可能性があります。

さらに、地域共創・地方創生の取り組みも重要です。東白川村や諸塚村とのグリーンツーリズムや木製品の活用、阿蘇の草原保全活動、全国各地の有機JAS農産物の導入など、地域との協働を通じて環境・経済・社会の三側面に波及効果を生み出しています。

これらの活動は、地域経済への効果に加え、環境保全(炭素固定)や教育的価値(体験学習)、関係人口の創出など複合的な社会的便益をもたらしており、SROI算定において複数の成果指標を設定できる分野です。

このように、スーパーホテルの活動は、環境(CO₂ゼロ泊)、健康(睡眠・健康な食)、地域(共有価値の創造)といった複数の領域で、明確な成果を伴う社会的価値を生み出しています。これらの取り組みはSROI算定の対象として適しており、今後、同社がこれらの社会的価値をどのように数値で示していくか期待されます。

次年度以降、定量的な社会的リターンを明らかにし、持続可能なホテル運営モデルとしての社会的インパクトを国内外に発信していくことを心から期待しています。

注)炭素1トンあたり15,000円は、CO₂排出の削減による社会的便益の評価に用いた炭素価格。国際的・国内の公的機関が示す政策評価の参考値に基づく。国際的には、米国環境保護庁(EPA, 2023)が社会的費用を約51ドル/t-CO₂と示す一方、世界銀行(2024)は1.5°C目標達成には100ドル超が必要と示唆している。日本でも、環境省(2022)が14,000～20,000円、経産省(2023)が1万～2万円を目安としており、これらの値を総合した現実的な中間的な金額として例示。